

宮城県古川黎明中学校・高等学校
進路指導部 文責 山田 直人

令和8年度大学入学共通テストのWEB出願が始まります

●令和8年度大学入学共通テストWEB出願について

いよいよ大学入学共通テストの出願が始まります。令和8年度(2026年度)は、これまでの紙での出願から、WEB出願に移行します。郵送での手続きは原則として不要となり、インターネット上で完結します。高校3年生には9月5日(金)に実施した進路comVで詳細を確認したところではありますが、再度スケジュールをしっかりと把握し、余裕をもって手続きを進めてほしいと思います。出願は9月16日(火)の10時から始まります。

【出願までの主な流れ】

★マイページの作成(2025年7月1日～10月3日)

大学入試センターの「共通テスト出願サイト」で、自分専用のマイページを作成します。高校3年生は7月の進路comで作成しています。このマイページは、出願だけでなく、受験案内のダウンロードや受験票の取得、成績確認など、今後も使います。

★出願情報の登録・検定料の支払い(2025年9月16日～10月3日)

マイページ上で、氏名、住所、受験教科、顔写真などを登録します。このとき、入力ミスがないよう、何度も確認してください。情報の登録が完了したら、クレジットカードやコンビニ払いなどで検定料を支払います。入金完了して初めて出願が完了します。登録だけでは出願したことにはならないので、注意してください。

★受験票の印刷(2025年12月10日以降)

出願期間終了後、マイページから受験票がダウンロードできるようになります。必ず各自でA4サイズの白い紙に印刷し、試験当日まで大切に保管してください。

★WEB出願に必要なもの

- ・インターネットに接続できるパソコン、スマートフォン、またはタブレット
- ・連絡用のメールアドレス、
- ・顔写真データ(2025年7月1日以降に撮影したもの)

☆保護者の皆様へ

令和8年度から、現役生も各自で出願手続きを行うことになります。下記の二次元コードより、受験案内等が閲覧できますので、お子さんと一緒に手続きについて早めにご確認いただき、必要な準備を進めていただくようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、進路指導部へご相談ください。

【受験案内】



【受験上の配慮案内】



【大学入試センター】



【本校教員によるR7共テ分析④】

★歴史総合、日本史探究

共通テストの問題はToshin.comからの閲覧が便利です➡



分析・講評						今後(次年度)に向けての対策	本校生徒へのメッセージ
大問1	大問2	大問3	大問4	大問5	大問6		
歴史総合問題。近現代史(18～20世紀)の出題で、世界史の知識が要求されているが、歴史総合で学習した内容を、提示されている資料から読み取ることができ、得点のカギとなっている。	古代～近世(江戸時代)の総合問題。会話文と資料をヒントに、歴史的事実や人物の業績等の知識を活用しながら、正解を導き出したい。	古代の外交史、特に朝鮮半島と中国との関係が出題されている。時代ごとの外交の特徴、関連人物を手がかりに解いていきたい。	中世の総合問題+貨幣鑄造と天下統一に関する出題。武家政権の成り立ちと民衆支配、政権維持のための鉱山開発と貨幣鑄造を結びつけながら思考する力が求められている。	近世の村を題材とした出題。江戸幕府の経済基盤である農村と年貢、農民支配について、江戸時代を通じて、複数の資料を見ながら、封建制度の明暗をストーリーとしてとらえているかが問われている。	長谷川町子、松本清張、手塚治虫といった昭和を代表する庶民文化の立役者を盛り込み、戦後の政治史や社会の動きをつかんでいるかが大事である。	2026共通テストを受験しようとしているのであれば、2年生の後期末考査終了～3年生に上がるまでの課題として、「歴史総合」を完成させておくべし。3年生になってからの課外では「日本史」をメインとした受験対策をおこなう予定である。よって、前述の課題は必須である。	①人の話をよく聞く ②文章をきちんと読む ③自分から行動する ③視野を広くする ④他人に親切にする ⑤「受験は長い人生のプロセスの一部」という思考を持つ ⑥「受験生」という立場に甘えない 押忍

★地理総合、地理探究

分析・講評				
大問 1	大問 2	大問 3	大問 4	
「食料の生産や消費（13点）」 自然環境から国々の生活様式などまでの知識や思考力が必要な総合的な問題であった。問2は気候と農業の関連性が問われている。問3は各国の生活文化と農業の関連性が問われた。ひとつの知識だけでは対応できず、複数の知識を組み合わせて解答を導き出す必要がある。	「地域調査：愛知県三河地域（12点）」 資料を正確に読み取らなければならず、また日本の都道府県の位置関係などをしっかり把握しておく必要がある。特に問4は東海地域ならびに大阪との関連を理解しておかなければならない。問3は農産物の特性を理解しておかなければならず、地理的な知識というより、一般的な教養が必要となる。	「世界の自然環境と自然災害（20点）」 それぞれ資料を正確に読み取ったうえで、基本的な自然環境の知識を問っている問題が多かった。しかし、問1は初見の資料だったので迷う受験生も多かったと考えられる。初見の資料や統計などにも対応できる読解力が求められる大問であった。	「エネルギーと産業（21点）」 産業の分野が幅広く出題された。基本的には、基礎的な知識を用いれば解答は可能であるが、その知識がしっかりと定着しているかが重要である。問5はファブレス企業についての出題は題材としては真新しいものだが、資料を正確に読み込み理解すれば判別できる。	
分析・講評		今後（次年度）に向けての対策	本校生徒へのメッセージ	
大問 5	大問 6			
「産業構造の変化に伴う都市の変容（17点）」 教科書や資料集の基礎的な知識を理解すればある程度対応可能な問題が多かった。問1は日本における経済成長の過程を理解しておくことが重要である。問4は3次産業のうちの出版、新聞業の特性を理解しているかがカギとなる。問5は同心円状の意味が分かれば容易に解答できる。	「インド洋とそれを取りまく地域（17点）」 ひとつの大陸や地域からではなくインド洋という大陸横断的な範囲からの出題であった。受験生にとって馴染みのない国や地域なども扱われているが、基本的な地域の知識などがあれば解答できるものが多い。島国などの小国の知識は広く浅くでも触れておくが良い。	統計資料や模式的な図などが多く扱われるため日頃から図や統計に触れ、どんな内容が示されているかを判断できるようにしなければならない。また、統計資料や図などから何が分かるか。複数のデータからどのような事が結びつけられるかということを意識しながら日々の学習に取り組んで行かなければならない。馴染みのない語句などについてはほとんどの問題で説明がなされているので、それをしっかりと理解し、自分が持っている知識と思考力を働かせることが必要である。	地理は一言でいうと「浅く広く知識を持ち、あらゆる国に対してイメージを持つ」ことが求められる科目である。知識は身についた前提で、思考し、答えを導く内容がほとんどなので、「なぜこうなるのか?」「どんな関係があるのか?」「どのような流れになっているのか?」など多角的な視点で物事を考える癖を付ける必要がある。また、高校教科書の内容はもちろんだが、小学校、中学校で学んできた内容も必須である。教科書や資料集には載っていないような時事的な内容に関するものは、日頃から社会の出来事に興味・関心を持って過ごすこともかなり大切である。	

★公共、政治・経済

分析・講評				
大問 1	大問 2	大問 3	大問 4	大問 5
「男女共同参画の推進」（12点） 『公共』『公共、倫理』と共通問題。大問全体を通して、男女共同参画の現状と制度改革を中心に、人権などの学習事項の理解が問われた。問2では性別役割意識の性別・年代ごとの比較が出題された。 問1や問4のような問題に対応するためには、基本知識の習得が不可欠である。問2や問3のような問題に対応するためには、表やグラフといった数値資料を読み取る練習を積み重ねておくことが有効である。	「公共空間の持続的な形成に向けて」（13点） 『公共』『公共、倫理』と共通問題。大問全体が、公共空間の在り方をテーマに設定した生徒たちが探究学習を進めていく構成であった。問1ではハーバースとアールントの思想の理解が問われた。問3と問4では哲学カフェやICTをテーマに、抽象的な概念や構想を具体例に当てはめる出題がみられた。 問3や問4のような問題に対応するためには、多面的・多角的に考察する力を高めるよう普段の学習から意識しておくことが求められる。	「地域社会へのかかわりと安全な社会づくり」（18点） 政治・経済分野から資料の読解と基本的な知識が問われた。問4ではSNSと絡めて表現の自由の意味の理解を求める問題が出題された。問5では「ふるさと納税」の制度について、資料の読解と考察が求められた。問6の損失補償請求権は珍しい出題で答えにくいかもしれない。	「国際政治や経済のあり方」（19点） 新型コロナウイルスの影響やロシアのウクライナ侵攻など時事的なテーマの会話文をもとに展開され、国際政治・国際経済の分野を中心に問題が出た。問1は、マネタリーベースとマネーストックの違いや金利と国債の市場価格との関係という細かい事項が問われた。問4ではICCの目的や活動について、知識と考察をもとに答えを導く問題であった。問5は常任理事国が拒否権を行使した際に、総会がその説明を求める意義について考察する問題であった。	「日本の労働・雇用問題と国際比較」（19点） 諸外国の労働問題に関する会話文をもとに、さまざまな格差と貧困問題、日本と韓国の労働政策、理想的な労働環境、契約自由の原則の修正、労働組合組織率と労働生産性の国際比較、日本的な雇用関係の特徴と課題について問題が出た。問2、問3、問5、問6はいずれも会話形式の空欄補充問題だが、問2、問3は基本的知識が、問5、問6は論理的な思考力が問われた。
分析・講評		今後（次年度）に向けての対策		本校生徒へのメッセージ
大問 6				
「経済を活性化させるための企業の新規参入の促進」（19点） 株式会社制度とコーポレート・ガバナンス、需要供給曲線、イノベーションの効果と知的財産権、日本の検察審査会制度、製造物責任法の意義、農業への企業の参入に関する資料について問題が出た。計算を要する問2のような問題は、過去問にあまり出題例がなく戸惑うと思うが、十分に解答は可能である。 問5は基本的な知識が、問3は論理的な思考力が、問6は資料の読み取りと論理的な思考力が問われた。		大学入学共通テストの特徴として、第一に、各設問中に長・短の文章を設け、文章内容の把握力・要約力を問う設問や、関連性・因果関係を判断させる設問が見られます。従って、文章を多く読み、その内容をどれだけ早く掴めるかが勝負となります。これは普段から文章を読みこなし、早く内容を理解する国語力を測定しているとも言えます。第二に、空欄問題において、空欄に当てはめるものが、語句だけでなく文章の場合もあるなど多岐にわたっています。しかも複数の空欄すべてを適切に埋めることで正解になるので、断片的・部分的理解では得点できない仕組みになっています。 もちろん、知識を軽視しているわけではなく、十分な知識を持っていることを前提として、思考力や判断力を測る問題形式になっています。普段の授業を大切に、基礎知識を万全にして試験に臨みましょう。		
		読解力・思考力・判断力を問うような問題が多いので、現在の社会問題を広い視野で総合的に考える習慣を身につけることが必要です。また、文章を読んでその趣旨を把握する訓練をしなければなりません。そのような力を身につけるためには、まず、類題や演習問題を多数経験するとともに、模擬試験を受けて、実践力を養うことです。また、新聞などを読むことで時事にも関心を持ち、そのニュースが教科書のどの分野に関連する事項かを意識することも大切です。さらに、多数の資料を用いた設問が必ず出るので、資料集で資料の見方・読み取り方に慣れしておくといでしょう。 また「公共」分野からの出題もありますので、特に「思想・哲学分野」については、必ず定期的に復習をするようにしましょう。		

各大学の最新の入試情報は『河合塾 Kei-Net』での確認が便利です。右の二次元コードよりご覧頂けます。大学ごとに入試の種類も多岐にわたります。小まめな確認をお願いします。

